

ROSEリポジトリいばらき（茨城大学学術情報リポジトリ）

Title	幼稚園における実践研究のパラダイム：日々の保育と研究日の中で
Author(s)	久保田, 江満子 / 多田, 慧子 / 福田, 洋子 / 神永, 直美 / 石井, 智子
Citation	茨城大学教育実践研究(11): 1-15
Issue Date	1992
URL	http://hdl.handle.net/10109/12268
Rights	

このリポジトリに収録されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作権者に帰属します。引用、転載、複製等される場合は、著作権法を遵守してください。

お問合せ先

茨城大学学術企画部学術情報課（図書館） 情報支援係
<http://www.lib.ibaraki.ac.jp/toiawase/toiawase.html>

幼稚園における実践研究のパラダイム

—— 日々の保育と研究日の中で ——

久保田江満子*・多田 慧子*・福田 洋子*・神永 直美*・石井 智子*

(1992年3月31日受理)

Paradigm of Practical Study in the Kindergarten Daily Upbringing and Case Study

Emako KUBOTA, Keiko TADA, Yoko FUKUDA, Naomi KAMINAGA and Tomoko ISHII

キーワード；環境としての教師，幼児の姿をとらえる目，研究日

幼児と生活を共にしながら，幼児のより良い成長と幸せを願って進めていくことが，保育の現場における実践研究の基底となるものである。従って，研究に対する課題の持ち方や研究方法もそれを踏まえ実践に基づくものとならなければならない。

幼児の育ちを見つめながら研究を進める場合，幼児のつぶやきや小さな行動の一つ一つをとらえていくことが必要となる。しかし，現実では1クラス32名前後を保育しながら，研究を進めて行くため，様々な工夫が課題となる。

日々の保育の中で，また研究日の中で記録をとり合い，それについての話し合いをし，記録を確かなものにしながらか実践を重ねていくことで，幼児の姿や教師の援助をとらえることができると思われる。

はじめに

平成2年に改訂された，新幼稚園教育要領の中では，幼稚園の教育は「環境」を通して行なうことを基本とすることを強調している。本園では，これに先駆けて平成元年より3年間「幼児の育ちと環境」を大テーマに研究を進めてきた。サブテーマを，一年目は「育ち合う姿を見つめて」（環境としての友達役割），二年目は「環境としての教師の役割」，三年目は「一人一人にとってふさわしい環境を考える」（物的環境が果たす役割と物や場に対する教師の援助）として研究を深めてきた。

*茨城大学教育学部附属幼稚園

私達は、これまでの研究の中で、環境としての教師の役割の重要性を改めて痛感している。幼児にとって教師は大きな環境であることを再確認し、幼児と接しながら進める研究においては、その方法の在り方を慎重に考えていかなければならないことを再認識した。

現場における研究方法に対する考え方

幼児の育ちを促すためにふさわしい環境を用意しながら、その中で研究を進めていかなければならないと考える。また、幼児の姿を丸ごと受けとめて、幼児理解を深めながらテーマに迫っていかなければならない。したがって、常に幼児の姿をとらえ、実践を追求しながら記録を積み重ねていくことが、大切になる。その際、幼児の姿のとらえ方が問題となる。教師が毎日生活を共にしながらとらえていくので、主観的なとらえをしてしまうこともある。だからといってデータ分析による調査方法だけでは、幼児の姿をとらえきれるとは言えない。

そこで、クラス担任が中心となり、他の教師達数人の複数の目で幼児の遊びを見つめ、話し合いを重ねていくことを研究方法の基本に据えてきた。

研究方法について

1. 日々の生活の中で、幼児との信頼関係を十分に築いておくことを常に念頭に置くようにする。
 2. 研究の場としては、毎日の保育の場と研究日として設けた場とがある。
- (1) 日々の保育の中で

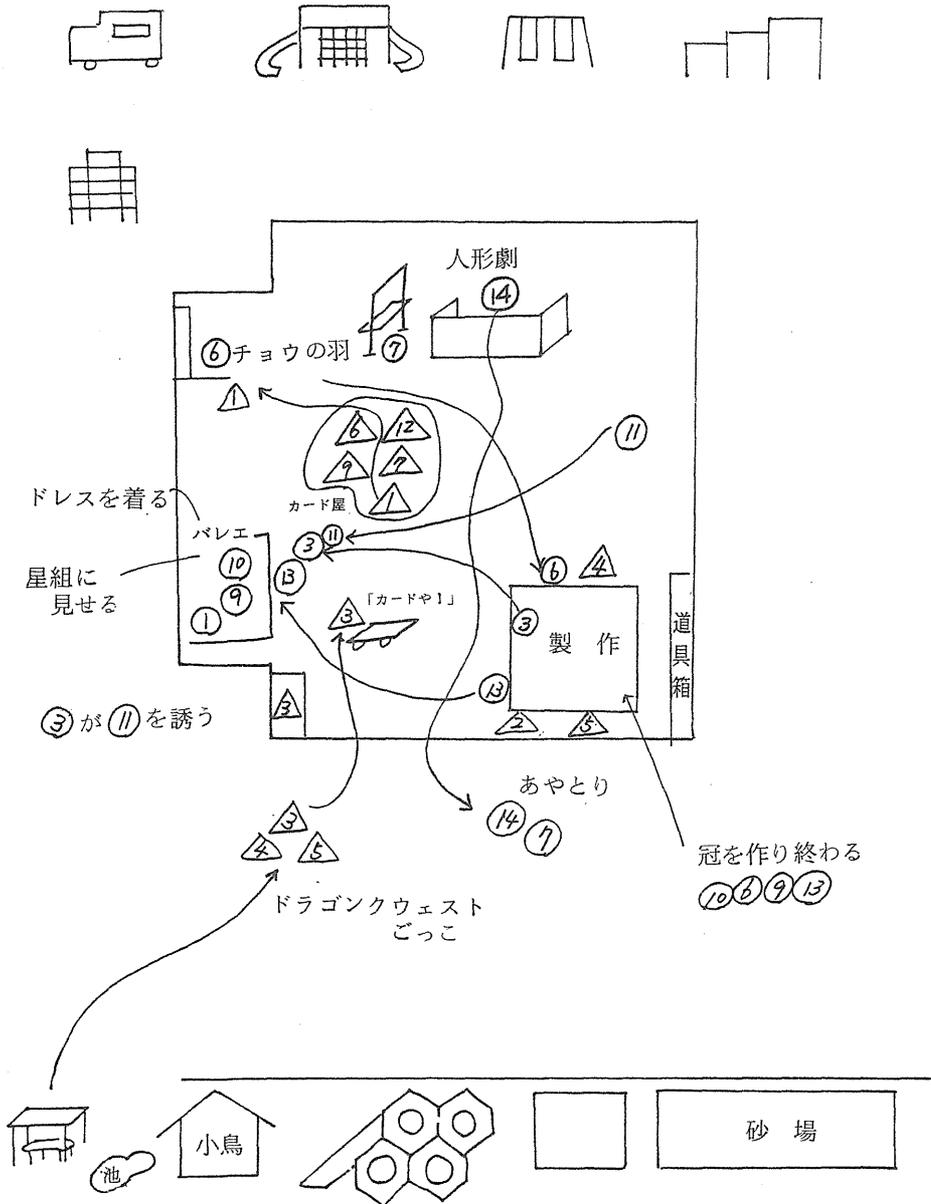
毎日の保育の中で、幼児と生活を共にすることが、現場の研究の第一歩である。この毎日毎日の生活の中から、研究テーマに向かって記録等をとっていく。

ア. 前日の幼児の様子から、本日の幼児の姿を予想し、計画立案する。

指導計画 (月) ~ (土)		年保育 幼児 組	
主 な ね ら い	目 的 的 場 所 の 区	ね ら い や 内 容 と 環 境 の 予 想 立 て	一 具 体 的 な ね ら い 、 内 容 (経 験 し て は い い こ と 、 身 に 付 け て は い い こ と) 年 保 育 組 任 (幼 児 組 任) 環 境 の 構 成 ・ 環 境 に か か わ っ て 活 動 す る 幼 児 の 姿 と 教 師 の 振 舞 い
登 園 の 時 間 の 出 立 ち の 姿 と 時 間 の 配 分 の 考 え 等	登 園 の 時 間 の 出 立 ち の 姿 と 時 間 の 配 分 の 考 え 等	月 ・ 日	教 師 の ね ら い
日 の 生 活 の 場 面 と 時 間 の 配 分 の 考 え 等	日 の 生 活 の 場 面 と 時 間 の 配 分 の 考 え 等	A 登 園 の 時 間 の 出 立 ち の 姿 と 時 間 の 配 分 の 考 え 等 1 時 間 の 配 分 の 考 え 等 2 時 間 の 配 分 の 考 え 等	A 登 園 の 時 間 の 出 立 ち の 姿 と 時 間 の 配 分 の 考 え 等 1 時 間 の 配 分 の 考 え 等 2 時 間 の 配 分 の 考 え 等
お や つ の 時 間 の 配 分 の 考 え 等	お や つ の 時 間 の 配 分 の 考 え 等	F 食 事 ・ 安 全 の 考 え 等	F 食 事 ・ 安 全 の 考 え 等
お や つ の 時 間 の 配 分 の 考 え 等	お や つ の 時 間 の 配 分 の 考 え 等	G お や つ の 時 間 の 配 分 の 考 え 等	G お や つ の 時 間 の 配 分 の 考 え 等
お や つ の 時 間 の 配 分 の 考 え 等	お や つ の 時 間 の 配 分 の 考 え 等	H お や つ の 時 間 の 配 分 の 考 え 等	H お や つ の 時 間 の 配 分 の 考 え 等
お や つ の 時 間 の 配 分 の 考 え 等	お や つ の 時 間 の 配 分 の 考 え 等	I お や つ の 時 間 の 配 分 の 考 え 等	I お や つ の 時 間 の 配 分 の 考 え 等
お や つ の 時 間 の 配 分 の 考 え 等	お や つ の 時 間 の 配 分 の 考 え 等	J お や つ の 時 間 の 配 分 の 考 え 等	J お や つ の 時 間 の 配 分 の 考 え 等
お や つ の 時 間 の 配 分 の 考 え 等	お や つ の 時 間 の 配 分 の 考 え 等	K お や つ の 時 間 の 配 分 の 考 え 等	K お や つ の 時 間 の 配 分 の 考 え 等
お や つ の 時 間 の 配 分 の 考 え 等	お や つ の 時 間 の 配 分 の 考 え 等	L お や つ の 時 間 の 配 分 の 考 え 等	L お や つ の 時 間 の 配 分 の 考 え 等
お や つ の 時 間 の 配 分 の 考 え 等	お や つ の 時 間 の 配 分 の 考 え 等	M お や つ の 時 間 の 配 分 の 考 え 等	M お や つ の 時 間 の 配 分 の 考 え 等

イ. 保育をしながら、メモ程度の記録をとる。（安全を確かめた上で、短時間で）
保育終了後に記録をとる際、思い出しやすくするために。

3月6日（金） 天気 晴



ウ. 研究の裏付けとして、記録写真を撮っておく。（幼児の遊びを妨害しないように注意しながら）

平成3年度

(光組)

番号	氏名	
1	A 介	カードをかいて集める。
2	N 男	猫の絵を描いて、①に渡す。
3	N 裕	ドラゴンクエスト
4	U 郎	ドラゴンクエスト
5	U 男	ドラゴンボールZになる。
6	T 男	カード作り、「△や△が犬や猫。ぼくもなったの」
7	T 夫	「犬さんになって、よかった」
8	U 吾	欠席
9	D 男	カード屋さんの中で活発に遊ぶ。
10	T 海	欠席
11	K 郎	欠席
12	T 也	カード屋さんまで乗せていく役。
13	U 太	欠席
14(1)	F 子	バレエごっこをする。
15(2)	U 子	欠席
16(3)	M 子	バレエごっこに入る。
17(4)	M 恵	欠席
18(5)	R 子	欠席
19(6)	A 美	チョウの羽をつけて、ままごとをする。
20(7)	M 子	あやとりを④とやる(人形劇)
21(8)	U 江	欠席
22(9)	K 子	冠を作り、バレエごっこをする。
23(10)	E 奈	冠を作り、バレエごっこをする。
24(11)	M 里	一人だったのが③に誘われる。
25(12)	T 子	欠席
26(13)	B 子	途中からバレエごっこに入る。
27(14)	O 子	人形劇をやめて⑦とあやとりをする。
28(15)	C 子	欠席

エ. 遊び等の中の幼児の会話を、カセットテープに録音しておく。(幼児を動揺させず、より自然な会話を録音することができるように、小さなカセットテープを使用する)

担任が保育をしながら、一つの遊びのコーナーでの会話を記録し続けることは、クラス全体の幼児にとって望ましくないと思われる。しかし、会話を記録として残したい場合は、急に出てくるものが少なくない。そこで、カセットテープで録音し、記録へつなげることができる。

オ. 保育終了後、録音したカセットテープを聞きながら、会話やつぶやきを文章に表しておく。

例 カーフェリーごっこを通して (6月19日(木))

D 男 の 言 動	他の幼児や教師の言動
①「これ海なんだよ。こん中。海、海」	②△「この帽子を被れば…」
③「ダメ！」	④△「エッ？」
⑤「ダメ！」	⑥△「だって、ターちゃんと同じ帽子被ってるよ」
⑦「それでもダメ！」	⑧△「じゃ、いーれーて！」
⑧「ダメ」	⑩△「ナーンダ！」
⑩「できた、できた。飛行機、JRバスでしょ。すごい、A男！そこはダメ。(△)お客が乗る所じゃないんだから」	⑫△「なんで乗っちゃダメなの？」
⑬「お客はいいよ。絵かきなんかする人は、乗らないで下さい」	⑬①は、D男に誘われるままにカーフェリーに乗る。
⑭「ここにしようか」	⑳△「バッパー」
⑮「A男、A男、セロテープ」	㉒△「バッパー、バッパー」
⑯「もうすぐ発車するよ。あとこれはったら」	㉔△「バッパー」
⑰「D男が運転する人だから乗ってもいいよ、先生。先生も乗っていいよ」	㉖△「ここは、海だよ」
⑱「よーし、発車！出発でーす」	㉘△「ぼく、D男君のに乗りたいたもん」
㉑「まだ発車していません。こういう所に触るからダメ」	㉚△「意地悪！」
㉓「まだ発車していないんだから」	㉜△「D男君！なんで先生だけ乗せて出るのがまったく！」(実際は△△も乗っている)
㉕「ここ、カーフェリーだから、まったくー。ダメだなー、まったくー。ここは、カーフェリーなんだから、U郎君に乗せてもらって」	㉞△「カーフェリー」
㉗「海だぞ」	㉟△「東京じゃないよ、カーフェリーなんだゾ、バカ！」
㉙「ダメ」	㊱年長児がやって来て「アクセサリー買いに来ませんか」
㊱「発車」	㊲(年長組に行く)
㊲「海だからね、下ね、気を付けて、発車！」	
㊳「後にお荷物！」	
㊴「東京駅、東京駅でーす」	
㊵「カーフェリーと……発車！どこに行きますか」	
㊶「アクセサリー買って来るまでこわさないように。ダメよって言ってね。誰か来たらね」	

カ. 保育修了後、保育を思い返しながら、また、メモを参考にしながらその日の幼児の姿や教師の手立てと反省、環境その他について記録をする。また、この記録を元に翌日の幼児の姿を予想して、環境を再構成して指導案を立てておく。

日々の記録と明日への予想立て

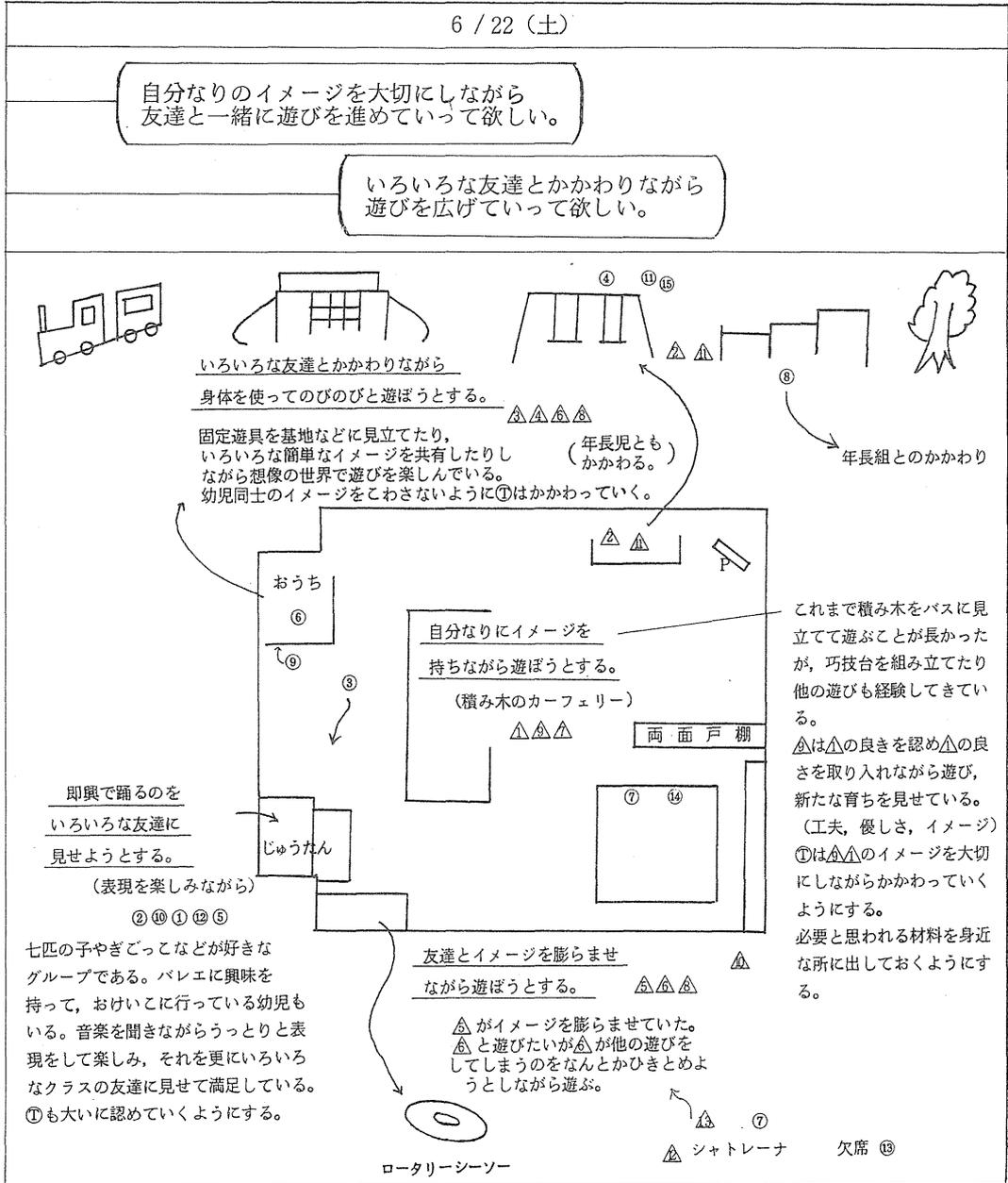
月 ・ 日		6 / 20 (木) ~ 6 / 21 (金)	
教師の ねがいの 環境の 予想立 て 環境の 構成		自分なりにイメージを持ちながら遊びを進めていって欲しい。	
		友達とのかかわりを広げながら遊びを楽しんで欲しい。	
一日の生活 (日々の記録)	A 登園	<p>A 体調を崩している幼児が多いので朝の状態を把握しながら、あいさつをかわしていく。</p> <p>D</p> <p>クラスにある積み木を殆んど全部使ってカーフェリーを作っている△△たちの様子を見ながら、他の幼児の欲求に気を付け、不満足な気持ちを受け止めていくようにした。</p> <p>・ リズム表現を自分たちで作成しながら楽しんでいる。役割分担などをお互いにしたり他クラスからお客さんと呼んだりしている。</p> <p>①は幼児の要求に応じ、客として踊りを見ながら大いに認め、幼児の人に認められたいという欲求を満足させていった。</p> <p>・ 固定遊具で遊んでいる幼児に声をかけたり、こいでやったりしながら何に興味を持って遊んでいるのか、満足しているかななどを見取りながらかかわった。</p>	△が積み木を譲れる範囲で譲れるように声をかけていこう。
	B 朝の出会い		△や△なりのカーフェリーのイメージを①が崩すことのないようにしていこう。
	C 遊びへの身支度		幼児同士の話し合いで役割分担などをどんどん決めながら進めていって欲しい。
	D 遊び 1		人に見せたいという欲求を大いに満足させていこう。他のクラスの幼児が座る場を一緒に確保していこう。
	E 遊び 2		鉄棒が出来るようになったことを認めて欲しい幼児には大いに認め励ましていこう。
	・ 活動のきっかけ		
	・ 意図		
	・ 自発		
	・ 現象		
	・ 活動へのかかわり方		
・ 原因			
・ 活動のつながり			
・ 深まり			
・ 幼児同士のかかわり、深まり			
・ 教師の援助、手だて			
F 健康 ・ 安全			
G 片付け			
H 当番			
I おや			
J 弁当			
K 降園児の身支度			
L 担任とのひととき			
M 降園			
環境の再構成		<p>・ 一人一人がそれぞれにイメージを持ちながら遊びを進めていると思う。(特に、△△のカーフェリー、△△たちのグループ) △△たちは、アニメの主人公になり共通のイメージを持ちながら、身体を使って戸外でのびのびと遊んでいる。△△△△△などの友達関係とイメージの持ち方の違いがどのようにかかわりながら遊びが進められているのだろうか。もう一度見直していきたい。</p> <p>・ ④、③など気持ちが揺れている幼児の興味などを考えながらかかわっていくようにしましょう。友達とのかかわりを持ってるように仲立など行っていこう。</p>	

3年保育 4歳児 光組
担任(福田 洋子)

6/22(土)

自分なりのイメージを大切にしながら
友達と一緒に遊びを進めていって欲しい。

いろいろな友達とかかわりながら
遊びを広げていって欲しい。



キ. 幼児の姿の記録の積み重ね

・ 本日の生活が展開されるために

2 / 29 (土) ~ 3年保育 4歳児 光組

<クラスの実態、遊びの流れ>

- いろいろな友達とかかわり合う楽しさを味わいながら遊びを進めようとする。
- ・ アシカショーにかわって、イルカショーが始まる。アシカショーの時は、目新しさで集まってきている部分があったので、参加するメンバーもいろいろな友達であったが、イルカショーになると、ここまで意識が持続する幼児でメンバーを構成している。アシカショーの時は、だれでも入れてあげていたのが、イルカショーになると「入れて」「もういっぱいだからダメよ」という会話が聞かれる。しかし、3歳児をメンバーに入れてあげたりお客さんとして他のクラスから呼んでくるなどして、人とかかわりが広がっている。
- 遊びに必要な物を工夫しながら作って遊ぶ。
- ・ パーマやさんごっこが2 / 13からずっと続いている。そこで使って遊んでいる小道具は、最初のパーマやさんごっこのメンバーが教師と一緒に作った物である。「パーマやさんには、ハサミがあるよ」「ドライヤーを作ろう」というようにして、一つ一つ考えながら小道具を増やしていったものである。同じ場を最初のグループがたっぷり使ってやめた後に次のグループが来て使う、また数日後に他のグループが使う、という姿が見られる。自分たちで工夫したり作ったりすることがあまり得意でない幼児も、友達が工夫して作った物を使って遊ぶことで、大きな刺激（環境）となっていると思われる。
- ・ 「航空ショーはね、網のむこうから見るから網を作ろう」「ひもで作る？」などの会話も聞かれる。「券はいらないけど、お金は必要だよ」「電車で回って見るんだよ」と、いろいろ考えて用意をしたり、作ったりしている。
- 自分の意見を友達に言いながら遊びを進めようとする。
- ・ イルカショーごっこでは“だれがどの役をやるか”や次には何をするか、などをそれぞれが意見を出し合いながら遊びを進めている。

<個人・グループへの留意点>

⑧ ……⑦④に誘われてバレエごっこを始めると、非常に嬉しそうな表情をする。⑧が花組に呼びに行ったり、教師に「見る？」と声をかけたりする姿（2/29）に大きな成長を感じる。楽しいと感じる場面では、特に共感しながらかわっていきようにする。

△△ ……△が欠席している時は、△は教師や他の幼児とかかわりを持てるが、△がいる時は、2人だけで遊びがちである。2/26ごろから⑥や④とのかかわりもできている。⑥のパーマやさんの隣りに積み木で車庫を作っているので崩れないように援助をしていく。

△△△△ ……△の意見が強いので△や△が押され気味である。一人一人が自分の意見をはっきり言えるようなふん囲気にしていくように教師も仲立ちとなっていく。

<物や場への配慮>

- 航空ショーごっこは、積み木の飛行機の周囲を木の馬を引いて回るため、他のコーナーの物を崩してしまうことも予想される。コーナーとコーナーの間を特にたっぷりとするように配慮していく。
- 飾り物やさんごっこでは、小麦粉粘土や紙粘土を使用しているため、取り扱いに気をつけていく。（テーブルクロスを敷く、腕まくりをする、エプロンをする、など）飾りつけ方や材料の美しさに気付いたり、友達の作品のよい所を取り入れたりしていくようにする。
- イルカショーの場は、南面テラスの日だまりに作ってあるが、出入口付近になりがちである。特に、木工台からジャンプして降りる際には、気を付けるように、安全面での配慮をしていく。

<かかえている課題>

- 遊びの中でより面白くなるような工夫を積極的にしていく幼児が多くなってきているがアイデア浮かんでも教師に「作って」「やって」と言ってくる幼児の姿が見られる。自分で作れる部分は、励ましながら作れるようにしていく。また、自分の力で工夫して作れるような素材を用意していくようにする。

ク. 本幼稚園の全体環境をあらかじめ用意しておき、保育終了後、全教官が各々の保育の場面における幼児の姿を書き込んでいく。

ケ. 記録者は、担任及び園内全ての教職員

幼児の日々の姿や遊びの流れをしっかりと把握している担任が、記録することを基本とするが、園庭の色々な場所にわかれて遊んでいる場合や、一つのコーナーの遊びを継続的に記録したいときにどうするかが問題となる。



担任以外の教職員も、幼児に対して共通理解をするように努め、記録をとったりする。

コ. 保育終了後の昼食時や休み時間等、教職員が集まるときを利用して、リラックスしながらも保育の中で気づいたことやエピソード等を話し合う。

(2) 研究日の中で

ア. 研究日の持ち方

- ・ 1クラスを研究日として、4クラスを休園にする方法

良い点……………教官が全員で同じ保育場面を見ることができるので、共通の場面について全員で協議することができる。

記録者の人数が多くなるので、より多くの幼児について詳しく記録をとることができる。

問題点……………1クラスのみ登園なので、いつもの雰囲気とは違ってしまい、幼児の姿も変わったものとなりがちである。

- ・ 2クラスを研究日として、3クラスを休園にする方法

良い点……………いつもの雰囲気に近い状態で、幼児が遊びに取り組むことができる。

問題点……………2クラスを保有するので、全教官が同時に同じ幼児の姿を見ることができない。従って、協議を深めるのが難しい。



ビデオや記録資料の利用により共通の場面による授業分析ができるようにする。

イ. 研究日の時期や回数について

研究内容によって研究日の時期や回数は異なってくる。¹⁾平成2年度には、教師の行動分析から教師の行動の意味を探り、環境としての在り方を考えるため、次のようにした。²⁾

例 行動分析の方法

登園から降園までの幼児と教師のかかわりについて、行動のすべてを追うことにする。

教師は、どこで、何をしたか、その行動の示した意味を問い、教師のことばかけや物の提示などが、幼児の主体的な行動と、どうつながっているかを明らかにしようとした。

一時期一	5月～6月に一回
	10月 一回
	2月 一回

一準備一 前日までの幼児の日々の記録と、指導案

それぞれの幼児の今までの様子を記録したものを用意
研究日の目的の再確認

記録者は、VTR、写真、幼児の記録教師の記録に分かれる。

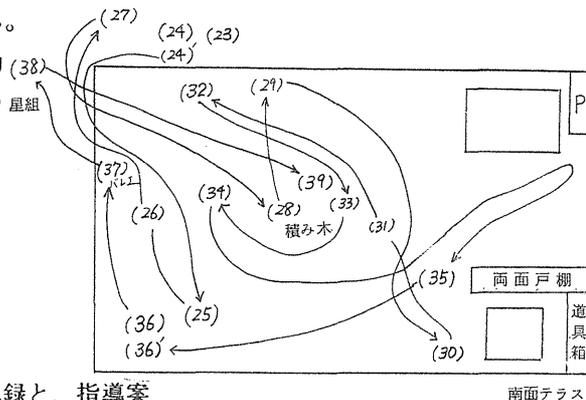
一記録一

教師の行動の軌跡と幼児の行動と言葉の記録

記録者は、教師の行動を克明に追う、視覚的にも分かるように行動の軌跡を示した。

教師の動きが、めまぐるしく動く時、たっぷりと一つの遊びにかかわっている時と様々な様相がみられ、また行動の意味するものにも様々なものがあった。教師の軌跡に番号をふると100以上にもなった。その中には、無駄な動きもあるが、教師にとっては真剣な動きばかりである。

園内研究日 第4回 (光組) 2年6月20日



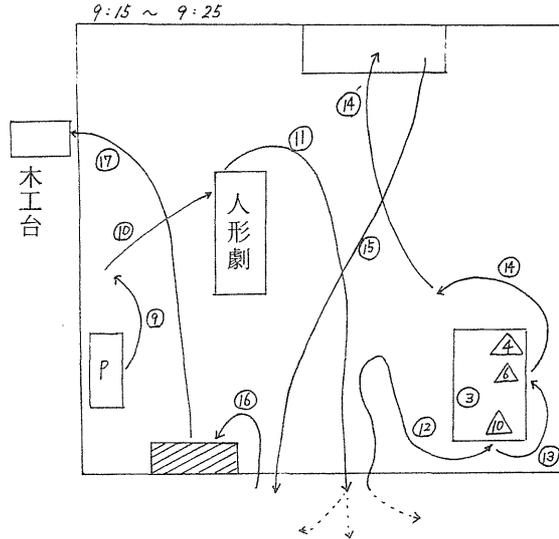
南面テラス

(例) 教師の実際の行動

- A (24) 遅く登園してきた幼児を迎え入れる。
- F (24) 「先生カーテンつけて」と が言いにくる。「ちょっと待ってて」という。
- H (25) 木材を取りに行く。
- A (27) バレエごっごの所にカーテンをつける。「はい、カーテンできました」
- P (28) 遅く登園してきた幼児を迎え入れる。
- Q 「仲間に入れて」と積み木遊びの幼児に声をかける。「いいよ」という応えが返ってくる。
- P.R.(29) のりものの説明をきき「すごいねー」という
- P.R.(30) 「いいものがある」と、トランシーバー (オートーセヨ) を幼児にみせる。
- P.Q.(31) トランシーバー (オートーセヨ) に、ボタンや印を書いてみせる。
- S 「オートーセヨ,オートーセヨ,かいじゅうの森ですか」と、積み木遊びの幼児と話す。

記録による読みとり

それぞれの行動の記録を整理する中で、その行動の意味するものを考えて記録する。



- ピアノの上でピアノカをひいている⑧⑩に
 ①「キズがついちゃうからお椅子の上でやってね」
 ⑨ ⑦に「テープかけて下さい」と言われテープをかける。
 ⑩ 人形劇の様子を見ながら床に置いてあるタンバリンをひろい人形劇の幼児たちに「ここにタンバリン置いとたらふまれちゃうよ」
 ⑪ 部屋を見わたしながら外を目で確かめ戸を閉める。
 ⑫ 部屋へ戻り△に「じょうずになったね」と声をかけ、下におちているゴミを拾う。
 ⑬ △△が船の本を見ている。「これが作りたい」という要求に①材料を用意しながら話を聞く。
 白い紙を「ここに入れておくからね」と引き出しに入れる。△「できたら言うからね」①「教えてね。見にくるから」
 ⑭ △△に声をかけ、基地の中で遊ぶように(製作)話す。

- ⑭' △△△が遊び始めるのを見届ける。
 「必要なものは自分でそろえよいいね」
 ⑮ 外で幼児の声がするので南面テラスの方を見ると長い棒が見えたのでいそいで外へ出る。
 ①「どうしたの？」(K①, E①)
 △△△△△「鉄砲が作りたい」「ハンマーだよ」

この記録に示される教師行動には、次のようなものが見られた。

9:15~9:25

- (8) J 約束ごと物の使い方
 (9) C 要求に応じる
 (10) J 物の使い方
 (11) B 安全確認
 (12) I ほめる、遊びがより楽しいようにする
 (13) K 幼児と共に作り出す要求に応じる
 (13) C 要求に応じる
 (14) J. B 安全, 約束ごと
 (15) B 安全
 (16) I ほめる

以上の様に、それぞれの教師がどの様な思いで幼児にかかわったか、行動の意味するものを分析し、更に整理してみると次の様な23項目となった。

教師の行動23項目

これらの23項目は、研究日に、実際に出て来た、教師の行動の意味するものの記録であるため、日々記録を続けるとすれば、更に教師の行動の意味するものは、増えると考えられる。また、この項目として示された行動であっても、その一つ一つの中には他の項目に示された内容が様々にかみ合っていること、日々の積み重ねが多ければ多いほど、質的に違った内容が出て来て、年齢段階の特質も浮きぼりにされるであろうことは、十分に予想できることである。しかし、ひとつの試みとして教師自身を見つめる窓口としての研究日の行動分析は、それなりの意味があったのではないだろうか

各年齢による教師の行動の違い

それぞれのクラスの研究日をくらべると、教師の行動は当然のことながら違って来る。

教師の行動分析

(23項目)

楽しく生活するために	安定するために	安心感を与える 気持ちを受け入れる 共感する 自信をもたせる 教師の所在を明確に
	応答の中で	要求に応える 質問に答える 遊びが面白くなる工夫 一緒に遊ぶ
		遊びの仲立ち トラブルの仲裁
	気付かせながら	気付かせる イメージを伝える イメージを明確に
	認めながら	認める・ほめる
	様子を見守りながら	遊びの場を見まわる 目で追って確認
物的条件を整えながら	遊びに必要なものの準備 場の整理 場と遊びとの位置関係	
健康な生活をするために	体調を考慮 習慣づけの手助け 安全な配慮	

(5～6月)

項 目		星	花	光	月	空
認めながら	認める・ほめる	見せに来たものをほめる。自分でできたことをほめる。				ほめながら次の頑張りを期待して
	遊びの場を見まわる	室外にいる幼児に声をかける 遊び全体を見る	室内での遊びを見に行く	遊びの工夫を認める		
遊びの様子を見守りながら	目で追って確認	製作コーナーの材料 補給、要求の言えない幼児に与える。	室内での遊びを見に行く	他のクラスで遊ぶ幼児を見に行く	遊ぶ様子を目で追う	
	遊びに必要な物の準備		幼児と遊びながら周囲を見る。			
物的条件を整えながら	場の整理	落ちていた物を拾う 乱れている遊具の片付け	虫とり用の入れ物を出す。材料のある場所を知らせる。		材料準備の手助け	新しい遊びのきっかけとなる物
	遊びに入れない幼児の場を作る。				必要なものがみつかりやすいように汚れた場所を拭く	
	場と遊びとの位置関係		幼児と一緒に片付ける。	遊びが続くように場を確保	片付けを知らせる	幼児と一緒に片付ける
					遊びと共に場を広げる	

ウ 研究日の記録を元にして話し合う

保育が終わってから、記録や資料を持ち寄って、全教官で話し合いを持つことは非常に有意義だと思われる。話し合いで気づくことの一つは、保育者と記録者との思いの違いが出ることである。クラスの幼児の姿を最も良く理解し把握していると考えられる担任が保育をしても、一ヶ所にずっといて同じ幼児にかかわることは難しいので、継続して幼児の姿を追っている記録者のほうが幼児の姿をしっかり把握できる場合がある。

例. パノラマごっこ

D 男の言動	他の幼児や教師の言動
⑧④ 「バスです。早くお乗りの方はいませんか」 橋を渡って、クレーン車(△が走らせる)	⑧⑤△ 「止まらなくてかいてあるけど」
⑧⑥ (聞こえないのか、つづいて走らせる) 「信号こわれちゃったんだよね。乗りませんか。(別に乗ることを期待していない)(△の絵をのぞく) 3階だてなんてないよ。あっ乗るところ」(使っていたバスに出入口をかく)	⑧⑦△ (かき上げて切り抜く) 「なんだこれ!何かおかしいな。(①に見せにいく)(出入口とかいてもらう)
⑧⑧ 「ブー、ブー」	⑧⑨△ 「先生、これ飛行場に行く道」
⑧⑨ 「ピンクとオレンジの道だよ」	⑧⑩① 「飛行場に行く道って聞いているよ」
⑧⑩ 「ねーねー先生、下に降りられないじゃない」 <u>降りるときどうするの。(板が厚すぎて段差ができることを考えている(①は平な感覚のため意味を受け取りかねている))</u>	⑧⑫① (橋にしたボール紙がとれそうになる)「橋に板みたいのしてみる」
⑧⑪ 「そーっと取ってよ」(①が板を下に差し込む)	⑧⑭△ (板を渡すことを受けて破れないようにそっとセロテープをはがして待つ)
⑧⑫ 「このこと同じにしてよ」(道巾が同じになるように要求)	⑧⑮△ 「先生、Uターンするとこないよ」
⑧⑬ 「もう一回切って間をあけるか」	⑧⑯① (ボール紙で坂道にすることを提案)
⑧⑭ 「ここ高くして坂にしようか」	⑧⑰△ (巾をそろえて切る) (△が乱暴に押し歩いているうちに画用紙の道路が盛り上がるようになる)
⑧⑮ 「そうじゃないの、ガンでなるようにするの」 (適当な箱を探す)	⑧⑱① 「こうするの」(少し盛り上がるようにしようとする)
⑧⑯ 「そうだ、一たん試してみて」	⑧⑲△ 「この下にも道路を作って通れるようにするの、ヤッター(自分の気付きに歓声)」
⑧⑰ 「ほくのバス、どこへやっちゃった。(△が取ってやる) サンキュー、これだれなの、発車しちゃだめなの」	⑧⑳△ 「2台、ずるい」
⑧⑱ 「事故してる道路だ」	⑧㉑△ 「△君にやろうか」
⑧㉑ (机の下にくぐって見る)	⑧㉒△ 「くれるって、本当にくれるの」
⑧㉒ 「なあ、なあ、先生」(Dの姿が見えないのでボール紙を細く切る。(下の道路を作る))	⑧㉓△ 「違うの、後で返して」
⑧㉓ 「みんな、手伝ってよ」	⑧㉔① 「下の道路にする？」
	⑧㉕△ 「あっちから、ここを通過して、こっちの道通ってしてみたら。ミサイルの作って」
	⑧㉖△ 「ああして、ここ走って、ここを通過してみたら」(提案するが、全く聞いてくれない)(セロテープでつなげる)(△だけが作りつづける。他は道路を走らせる)

太いアンダーラインの部分を見ると、橋にしたボール紙がとれそうになったので、教師が橋にするために板を提示している。それに対し、「ねーねー先生、下に降りられないじゃない」と言っている。教師は、ボール紙も板も平に感じているため、幼児の言葉の意味をとりかねている。幼児は、画用紙やボール紙で道路を作っていたので、板の厚みが気になり教師はその思いを受けとめられない。しかし、継続して冷静に記録をし続けている記録者には幼児の思いが伝わってくることもある。

例で示したように、保育者と記録者の両者で幼児を見つめると、受けとめ方に違いがあることに気付く。

このように毎日の保育の中でもとすると見逃してしまいがちな部分についても、研究日の記録をもとに、話し合うことによって幼児の理解を深め、幼児の姿を見つめる目を養っていくことができる。

ま と め

保育の現場における研究方法について色々な角度から迫っていった。現場においては、毎日幼児と生活を共にしながら研究を進めていくわけであるから、研究を進める前に、幼児が安定して生活できるように配慮しなければならない。そして、研究を進めていくうえでも幼児にとってのふさわしい園生活を頭に入れておかなければならない。幼児の心に触れ、教師が環境の一つとして携わりながら、よりよい育ちを促すための援助を続け、その中で研究を進めていくわけである。

これらのことを心におきながら、毎日の生活の中でとらえた記録を積み重ねていくことを、研究方法の基本としている。

問題点としては、幼児の姿をとらえる目を養わなければ記録が生きてこないこと、また、複数の教師が記録をとり合って、さらに協議しあわないと独りよがりの結論を出しがちになること、教師は各々クラスをもっているので、交代で記録をとり合わなければならないことなどがある。

これらのひとつひとつに対する解決をさらに進めながら、研究を進めていきたいと考える。

おわりに、本稿は全教官で話し合い、実践をしている内容を、福田が執筆し、久保田が加筆草稿したものである。

注

- 1) 研究日の回数は、研究内容によって異なり、本年度については増やそうという方向にある。
- 2) 久保田江満子、多田慧子、福田洋子、神永直美、石井智子「教師の行動分析から教師の行動の意味を探り環境としての在り方を考える」『茨城大学教育学部附属幼稚園研究紀要』7号（1990）、pp. 7 - 11.